

専攻医研修実績記録フォーマット

症例
 <自己評価>

症例項目	症例数				
	目標数	1年次	2年次	3年次	4年次
I 外傷					
1. 熱傷・凍傷・化学熱傷・電撃症	5				
2. 顔面軟部組織損傷	20				
3. 顔面骨骨折	10				
鼻骨骨折					
鼻篩骨骨折					
頬骨骨折					
眼窩骨折					
下顎骨骨折					
Le Fort骨折					
前頭洞・前頭蓋底骨折					
4. 四肢の外傷	25				
5. 外傷後の組織欠損					
II 先天異常					
1. 口唇裂・口蓋裂	5				
口唇裂					
口蓋裂					
2. 頭蓋・顎・顔面、頸部の先天異常	5				
耳介変形					
頭蓋骨早期癒合・頭蓋顎顔面形成不全					
顔面変形・顔面裂					
その他					
3. 四肢の先天異常	5				
4. 体幹(その他)の先天異常	必須ではない				
漏斗胸					
臍ヘルニア					
ポーランド症候群					
III 腫瘍					
1. 皮膚良性腫瘍・母斑・血管腫	75				
2. 皮膚悪性腫瘍	5				
3. 腫瘍切除後の組織再建	10				
頭頸部再建					
乳房再建					
四肢再建					
IV 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド					
肥厚性瘢痕・ケロイド	15				
瘢痕拘縮					
V 難治性潰瘍					
褥瘡	5				
下腿(足)潰瘍	20				
その他の潰瘍					
VI 炎症・変性疾患					
顔面神経麻痺	10				
手足の炎症、変性疾患					
VII その他					
眼瞼下垂	5				
腋臭症					

<他者評価>

	フィードバックコメント	確認日	サイン
1年次			
2年次			
3年次			
4年次			

専攻医研修実績記録フォーマット

手術

<自己評価>

手術項目	執刀手術数				
	目標数	1年次	2年次	3年次	4年次
I 外傷					
1. 熱傷・凍傷・化学熱傷・電撃症	2				
2. 顔面軟部組織損傷	2				
3. 顔面骨折	3				
鼻骨骨折					
鼻篩骨骨折					
頬骨骨折					
眼窩骨折					
下顎骨骨折					
Le Fort骨折					
前頭洞・前頭蓋底骨折					
4. 四肢の外傷	3				
5. 外傷後の組織欠損					
II 先天異常					
1. 口唇裂・口蓋裂	0				
口唇裂					
口蓋裂					
2. 頭蓋・顎・顔面、頸部の先天異常	2				
耳介変形					
頭蓋骨早期癒合・頭蓋顎顔面形成不全					
顔面変形・顔面裂					
その他					
3. 四肢の先天異常	2				
4. 体幹(その他)の先天異常	必須ではない				
漏斗胸					
臍ヘルニア					
ポーランド症候群					
III 腫瘍					
1. 皮膚良性腫瘍・母斑・血管腫	16				
2. 皮膚悪性腫瘍	0				
3. 腫瘍切除後の組織再建	2				
頭頸部再建					
乳房再建					
四肢再建					
IV 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド					
肥厚性瘢痕・ケロイド	3				
瘢痕拘縮					
V 難治性潰瘍					
褥瘡	0				
下腿(足)潰瘍	3				
その他の潰瘍					
VI 炎症・変性疾患					
顔面神経麻痺	1				
手足の炎症、変性疾患					
VII その他					
眼瞼下垂	1				
腋臭症					

<他者評価>

	フィードバックコメント	確認日	サイン
1年次			
2年次			
3年次			
4年次			

項目		自己評価	評価日
I 医療面接・記録 <1年次>			
1. 医療行為に関する法律を理解し、遵守できる。			
2. 患者、及びその家族と良好な信頼関係を築くことができる。			
3. 患者の精神的背景・状態を考慮した上での病歴聴取ができる。			
4. 病歴聴取の結果から、診断名を想定し、鑑別診断を挙げることができる。			
5. 正確な診断を下すために必要な検査を指示・実施することができる。			
6. 診断に対する保存療法、手術療法を含めた治療法の選択肢を列挙し、それぞれの結果を想定できる。更にそれに伴う治療期間、経費などにも精通している。			
7. 治療後に起こりうる合併症に関して、知識・経験を元にした想定をすることができる。			
8. これらのことを患者に適切に説明することができ、治療に関するインフォームドコンセントを得ることができる。			
9. 治療経過・結果に関して的確に把握し、患者に説明することができる。			
10. インシデント・アクシデントが生じた際の処置を的確に執ることができ、患者に説明することができる。			
11. すべての医療行為、患者に行った説明など治療の経過を書面化し、管理することができる。			
12. 診断書、証明書、等の書類を作成し、管理することができる。			
II 診断 <1年次>		自己評価	評価日
1. 病歴聴取と視診・触診によって、患者の身体異常を把握することができる。			
2. 身体計測、神経学的検査などの所見により、病態を把握、あるいは予想することができる。			
3. 適切なX線写真の撮影方法、造影検査方法の他、超音波、CT、MRIの適応に関する知識を持ち、読影することができる。			
4. 電気生理学的検査(筋電図、神経伝導速度など)を理解し、その結果を治療に反映させることができる。			
5. 基本的な病理学的知識を持ち、病理医の診断に照らし合わせることによって治療に反映させることができる。			
III 検査 <1年次>		自己評価	評価日
1. カメラ・ビデオの機能に熟知し、病変部を的確に捉えた写真撮影、ビデオ撮影をすることができる。			
2. 関節可動域、四肢周囲径、乳房位置などの身体計測を的確に行い、評価することができる。			
3. 皮下腫瘍、血管腫などに対する超音波検査(カラドップラー法を含む)を行い、病態の把握、病変部の広がりを知ることができる。			
4. 下肢血流判定を目的とした皮膚灌流圧(SPP)などの検査を行い、評価することができる。			
5. 病理検査を目的とした生検を、的確な部位、方法で行うことができる。			
IV 治療 <1年次>		自己評価	評価日
1. 医療安全の重要性を認識した上で、治療に望むことができる。			
2. 薬物に対する知識を元に、適切な処方を行うことができる。			
3. 局所麻酔(注射、クリーム等)に関する知識に精通し、正しく施行できる。			
4. 軟膏、クリームなど外用剤に対する知識を持ち、創傷治療に実践することができる。			
5. 創傷被覆材に精通し、的確な創傷治療を行うことができる。			
6. 形成外科的な病変部の固定法(ガーゼ、包帯、副子、ギプス、テーピング)の基本と適応を理解し、適切に実施することができる。			
7. 陰圧療法の基本と適応を理解し、適切に実施することができる。			
8. ケロイドに対するステロイド療法などの保存的治療の適応を理解し、的確な局所注射を行うことができる。			
9. 理学・運動・作業療法の基本を理解し、適切に処方することができる。			
10. 保存的治療としての、あるいは術後療法としての器具の意義を理解し、適切に処方することができる。			
11. 言語、四肢運動機能などのリハビリテーションの意義を理解し、適切に処方することができる。			
12. 術前の準備(体位、手洗い、ドレーピングなど)、術後の管理(安静度、食事制限、創部の処置など)を適切に行うことができる。			
V 偶発症 <1年次>		自己評価	評価日
1. 検査・治療前から医療行為に対する偶発症を、患者の合併症なども考え合わせて想定しておくことができる。			
2. 検査・治療中から患者およびそのデータ監視を厳重に行い、偶発症の発生をいち早く察知することができる。			
3. 生じた偶発症に対して、必要に応じて緊急処置を取ることができる。同時に各部署への連絡を取ることができる。			
4. 経過を記録し、患者並びに家族に説明することができる。			
VI 研究・発表 <3年次>		自己評価	評価日
1. 臨床症例から研究題材を見だし、研究のプロトコールを作成することができる。			
2. 結果を正確にまとめ、論理的に、統計学的な正当性を持って評価することができる。			
3. 文献検索の方法を熟知し、適切に引用し、考察を加えた上で学会での発表、論文として報告することができる。			
4. 個人情報に留意しつつ、データ収集、発表を行うことができる。			
5. 利益相反の開示を正確に行うことができる。			

Ⅶ 基本的手術手技(A:理解 B:実践)		自己評価	評価日
a) 手術器械の理解と実践 <1年次>	A:手術器械の特徴, 使用目的, 使用方法 B:手術器械の使用		
b) 皮膚表面形成術(削皮術・電気凝固術・凍結療法・レーザー治療)<2年次>	A:医療機器の原理, 適応疾患, 施術方法 B:治療		
c) 皮膚切開 <1年次>	A:部位に応じたメスの選択, 皮膚切開の方法 B:皮膚切開		
d) 皮膚剥離 <1年次>	A:皮膚の解剖, 皮膚の剥離層, 剥離方法(鋭的・鈍的) B:愛護的な剥離操作		
e) 皮膚縫合(減張縫合・埋没縫合・表皮縫合)<1年次>	A:創傷治癒(1次治癒・2次治癒), 縫合糸の特徴, 縫合糸の選択, 縫合方法 B:縫合術, 縫合術後の創管理		
f) 縫縮術 <1年次>	A:縫縮術の理論, 縫縮術の適応, natural skin line(表情線・輪郭線・弛緩線), dog ear B:皮膚切開, 皮膚剥離, ドレーン挿入, 縫合術, dog earの修正, 縫縮後の創管理		
g) 切断術 <2年次>	A:切断術の理論, 縫縮術の適応, 切断レベル(足趾, リスフラン, ショパール, 膝下, 膝上など) B:皮膚切開, 軟部組織処置, ドレーン挿入, 縫合術, 切断後の創・全身管理		
h) 遊離植皮術(全層植皮・分層植皮) <1年次>	A:皮膚生着のメカニズム, 全層植皮と分層植皮の特徴と適応, 採皮部位の選択 B:採皮, 遊離植皮術, ドレッシング, 植皮片固定(tie over固定など), 採皮部位および皮膚生着後のskin care		
i) マイクロサージャリー <3年次>	A:顕微鏡の操作, マイクロサージャリーに関連する手術器械, 縫合方法(端々吻合や端側吻合・Back Wall Techniqueなど) B:愛護的な前処理, 顕微鏡下での縫合(血管・神経・リンパ管), patency test		
Ⅷ 手術手技の応用		自己評価	評価日
a) 分割切除術 <1年次>	A:分割切除術の理論, 適応疾患, 適応部位, 他の治療法との比較 B:分割切除術のデザインと手術		
b) 組織拡張器による皮膚伸展術 <3年次>	A:組織拡張器の原理, 適応疾患, 適応部位, 組織拡張器の選択と挿入部位, 皮膚伸展の範囲 B:組織拡張器の挿入, 皮膚伸展術		
c) Z形成術・W形成術 <2年次>	A:Z形成術とW形成術の理論と特徴, 適応部位 B:Z形成術・W形成術のデザインと手術		
d) 局所皮弁 <2年次>	A:局所皮弁の血行形態, 基礎的な局所皮弁(前進皮弁, 回転皮弁, 横軸皮弁), その他の局所皮弁, 皮膚欠損に応じた皮弁の選択, pivot point B:局所皮弁のデザインと手術		
e) 有茎皮弁・遊離皮弁 <4年次>	A:皮弁の分類, 皮弁の血行形態(栄養血管など), 有茎皮弁と遊離皮弁の種類, 組織欠損に応じた皮弁の選択, pivot point, 移植床血管の選択 B:有茎皮弁・遊離皮弁のデザインと手術, マイクロサージャリー		
f) 組織移植 <4年次> (真皮移植・真皮脂肪移植・脂肪移植・粘膜移植・筋膜移植・骨移植・軟骨移植)	A:組織生着の理論, 適応疾患, 適応部位, 採取部位の選択, 固定方法 B:採取, 組織移植術		

<他者評価>

	フィードバックコメント	評価日	サイン
1年次			
2年次			
3年次			
4年次			